



佐農高だより

～ 汗をかき 人と和して 己を磨く ～

令和5年度 第4号 (令和5年7月発行)

佐賀県立佐賀農業高等学校 校長 外戸口 良文

佐賀県杵島郡白石町大字福田 1660

TEL 0952-84-2611 FAX 0952-71-5009

<http://www.education.saga-ed.jp/hp/saganougyoukoukou/>



1学期は学業に部活動に一生懸命取り組みましたか。いよいよ夏休みです。暑い暑いと無為に過ごすな
かれ。各教科からの課題はもちろんのこと、自分で課題を見つけて、みっちり取り組む時間が取れる貴重な
休みです。得意なことをさらに磨いたり、苦手な教科をおさらいしたり、おもしろそうな本を読んだり、海で泳
いだり、ダンスを練習したり……。健康に留意して、充実した夏を過ごしてください。

農業クラブ意見発表会〈発表の部〉

農業クラブ員である生徒の身近な問題や将来の問題について抱負や意見を発表し、主体的に問題を解決する能力と
態度を養うことを目的として行われる意見発表会。今年5月19日(金)に校内大会を行い、意見発表部門・プロジェク
ト発表部門Ⅰ～Ⅲ類のそれぞれ上位3名・3チームを学校代表として選出しました。入念な準備を重ね、6月16日(金)、
唐津文化体育館で行われた県連発表大会に臨んだ結果、百崎諒さん・他3名が「プロジェクト発表部門Ⅰ類(生産・流
通・経営)」で、相良京之介さんが「意見発表部門Ⅰ類(生産・流通・経営)」で最優秀賞を受賞しました。
5人は8月上旬に長崎県で行われる農業クラブ九連大会(九州大会)に出場します。

また農業クラブスローガンでは塚島暖さん(農業科学科3年・西部中)の作品「熱く輝け!太陽の下(も
と) SAGAの農業の光となれ!」が最優秀賞に輝きました。



百崎諒さん(農業科学科3年・江北中)

テーマ 「生産者の負担軽減を目指して～クレオメとタバ
コカスミカメの有効活用～」

「先輩方の研究の積み重ねがあり、最優秀賞を取ることが
できました。農業従事者の役に立ちたいという想いから
始まった研究で、毎年、地域の農家の方々にタバコカス
ミカメ・クレオメを使っています。この研究の一番いいところは、農家の方と
関わりが多く、実際の声を聞けることです。効果があったと言っただけで、とても
嬉しいです。」



相良京之介さん(農業科学科2年・武雄中)

テーマ 「これからも私は自然と共存し、人とのつなが
りを大事にする農業という夢に向かって日々努力して
いく」

「1年前と比較して、農業についての知識が増えたの
で、より内容の濃い発表ができたと思います。将来は
肥料をやりすぎず、農薬を使用しない農業を
したいです。今は家で約5メートル四方
の畑を作って、無農薬栽培を実践して
います。虫がついたら手で取ったり、
酢やクレオメなどを使ったりしています。」



田植え(1年生全学科)

1年生は「農業と環境」という授業で全員が田植えを経験します。6月初旬から7
月初旬にかけて、各学科ごとに稲の手植えの実習を行いました。

田んぼのこちらからあちらまで広がって、それぞれ受け持ちの幅を、玉ひもの印を
頼りに後ずさりながら植えていきます。初めは足を這う虫の感触に悲鳴を上げてい
ましたが、じきに慣れ、植える姿もさまになっていました。

以下は実習後の生徒の感想です。

「一つ一つ植えていくのはとても大変だということを実感しました。今まで特に何も
感じないでご飯を食べていたけれど、これからは一粒一粒大切に、きれいに食べよ
うと思いました。」「腰やら肩やら、体中のあらゆる部位が痛くて、何より汚れるの
が嫌で、田植えなんて…とっていました。でもやっていくうちに、農家さんたちの大
変さが身にしみてわかって、そういうことを少しでも考えてしまったことを申し訳ない
と思いました。想像の中の田植えと、実際にやってみた田植えでは、大変さが違っ
て、実際にやるほうが100倍近く大変でした。」「初めはどうすればいいかわからなかつたけれど、途中でだんだん
とコツをつかめた。」「食べ物は何でも育ててくれる人がいるから、私たちが食べられるのだからよくわかりました。」



マルシェ & カフェ

6月30日(金)は、九州地区高等学校 PTA 連合会大会が佐賀市文化会館で開催されましたが、この催しに参加する人たちの楽しみはなんと言ってもご当地の特産品。会場にはたくさんの土産物ブースが並びますが、そこに佐賀農業高校のマルシェも出店しました。マフィンなどの焼き菓子を準備し、大雨が降りしき中、学校を出発。数ある店の中、高校生が販売するサノ・マルシェの集客力は目を見張るほどで、あっという間に売り切れました。ご指導された永尾脩先生は、「このブースだけ早々に売り切れて、周りの店に申し訳ないほどでした。改めて高校生パワーはすごいと思いました」と



PTA九州大会にて



広々した田んぼを望むカフェ

おっしゃっていました。そして7月8日(土)は、道の駅「しろいし」でカフェ、サノ・ポヌールを店開きしました。梅雨のまただ中の週末にもかかわらず人出が多く、こちらも予定時刻より前に完売御礼となりました。学校での実習の経験は生かされたでしょうか。生徒に感想を聞きました。「緊張して思うようにできませんでした。早口になって、声がだんだん小さくなって…」、「椅子が足りないとき、ほかのテーブルから移したりして、臨機応変な対応ができました。」、「私はキッチンを担当しましたが、学校よりも人が多くて忙しかったです。」、「放課後サービス『ひまわり』の子どもたちが来てくれました。子どもたちとどういふうに接すればいいのか難しかったです。ほかにもお客さんがいるのでいろいろ考えて対応しました。」松本奈々先生は「緊張する中で上手くできていました。こちらから指示しなくても自分たちで考えて接客していましたし、子どもたちが10名ほど来店したのですが、適切に対応していて感心しました。」と話されていました。

おっしゃっていました。そして7月8日(土)は、道の駅「しろいし」でカフェ、サノ・ポヌールを店開きしました。梅雨のまただ中の週末にもかかわらず人出が多く、こちらも予定時刻より前に完売御礼となりました。学校での実習の経験は生かされたでしょうか。生徒に感想を聞きました。「緊張して思うようにできませんでした。早口になって、声がだんだん小さくなって…」、「椅子が足りないとき、ほかのテーブルから移したりして、臨機応変な対応ができました。」、「私はキッチンを担当しましたが、学校よりも人が多くて忙しかったです。」、「放課後サービス『ひまわり』の子どもたちが来てくれました。子どもたちとどういふうに接すればいいのか難しかったです。ほかにもお客さんがいるのでいろいろ考えて対応しました。」松本奈々先生は「緊張する中で上手くできていました。こちらから指示しなくても自分たちで考えて接客していましたし、子どもたちが10名ほど来店したのですが、適切に対応していて感心しました。」と話されていました。

教育実習

5月29日から6月9日までの2週間、教育実習が行われました。今年の実習生は、3年前に本校を卒業した大学4年生です。在学中、農業科学科だった足立友凜さん(写真左)は現在、島根大学生物資源科学部農林生産学科、食品科学科を卒業した大鋸季由さんは佐賀大学農学部生物資源学科に在籍しています。お二人はかつて自分が学んだ学科で実習をしました。最終日、実習をしての感想をお尋ねしました。



足立さん「『このクラスはこうだからこういう教え方にしないと』とか『この生徒はここが良くて、こういう面が弱いから強みを伸ばしつつ、弱いところを補わないと』など生徒やクラスをいろいろな面から見て考えておられる先生方の姿が印象的です。後輩の皆さんは、夢に向かって学業に取り組んでいたの、すごい!と思う反面、昔の自分と比較し、恥ずかしくなりました。」

後輩へのメッセージ

「自分のやりたいコトをみつけろ~!!そしたら今から何をしたらいいのか分かるし、よりがんばろう!!ってなるよ~!!」

大鋸さん「はじめは長いと感じていた2週間ですが、実習が始まるとあっという間に過ぎて、とても充実した実習になりました。教える側に立ったのは初めてのことなので、授業の準備や授業そのものが難しく、いろいろと考えることが多かったです。」

後輩へのメッセージ

「高校3年間、意外とあっという間に終わります。普通高校では体験できないようなことが経験できる佐賀農業高校でたくさん勉強し、様々な活動に参加し、充実した高校生活を送ってください。」

8月行事予定

1日(火) 全校登校日	14日(月)~16日(水) 閉庁日
2日(水) 中学生体験入学1回目	17日(木) 公務員対策模試⑨
3日(木) 中学生体験入学2回目	ボイラー取扱技能講習(高志館)18日まで
4日(金) 公務員対策模試⑦	18日(金) 3年生進路対策特課⑧
室内園芸実技試験	21日(月) 3年生進路対策特課⑨
7日(月) 未来さが農業塾夏季研修	県農業鑑定合同勉強会
8日(火) 農業クラブ九州連盟大会(長崎)10日まで	22日(火) 3年生進路対策特課⑩
小型車両系建設機械特別教育 10日まで	23日(水) 高所作業車特別教育 24日まで
9日(水) 公務員対策模試⑧	24日(木) 公務員対策模試⑩
11日(金) 小型フォークリフト特別教育 13日まで	25日(金) OB面接会
	29日(火) 履歴書提出締切

編集後記 雑誌「現代農業」の2022年6月号に、立石賢也先生が執筆された佐農の「クレオメ」の研究の記事が掲載されています。あの有名な農業雑誌に、です。とても驚きました。私はたまたまこの雑誌を買っていますが、今試しているのは1月号の不耕起栽培。春、オクラの種を指で小さな穴をあけて蒔いてみました。…成長がすごく遅く、大きくなる頃には夏が終わりそうです。やはり最初は耕したほうがよかったですよ。図書室では今年度、「現代農業」を毎月購入しています。 K